



長崎県対馬病院実習記 「対馬地区離島実習」 2019.11.5
長崎大学医学部医学科
5年 中村 理貴

今回、対馬には初めて訪れましたが、対馬は想像していた以上に大きく、長崎県の面積の7分の1であることに驚きました。また、意外と風が強く寒かったことにも驚きましたが、会う人皆さん優しく、釣りをするときには餌をもらうなど困っているときに助けてもらい感謝の気持ちでいっぱいです。



実習では、午前中は新患外来の見学をさせていただきました。永安先生のもとで患者さんの診察の様子を見ました。風邪の症状の方、通院で薬をもらいに来た方など多彩な患者さんが来られました。また、重症大動脈弁閉鎖症の患者さんのエコー、心電図に同行させていただきました。技師さんに優しく教えてもらい、私も最低限のエコー技術を磨き、解釈できるようにせねばと再認識しました。午後からは、私はERCPを見学させていただきました。胆石症の患者さんで胆石破砕し、胆石をかき出し閉塞を解消していました。その後、救急の当番の先生につかせてもらい意識消失のため救急車で搬送された患者さんの初期対応を見学させていただきました。その方は胃癌の手術を行う予定で入院予定でしたが、自家用車で病院に行く途中で反応が悪くなったようでした。先生が丁寧に対応されていて、お忙しい中でこのように対応できるのはすごいと思いました。

先生方の言葉で一番印象に残っている言葉としては「対馬で行う手術はどこでも通用するクオリティで行い、絶対に患者さんの健康の不利益にはさせない」という言葉で、地域医療の理想を目指されていて、非常に感銘を受けました。

1日でしたが、担当となっていた永安先生をはじめ多くの先生方やそのほかのスタッフの方々、お忙しい中対応してくださりありがとうございました。火曜日、木曜日には産婦人科の先生方を中心として、とてもおいしい夕食を御馳走になり、ありがとうございました。最後になりましたが、医局秘書の永井さんには前日を含め3日間の食事の手配や日程の確認ありがとうございました。